

情報端末フェスティバル2013 in 京都

- 主催：情報端末事業委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約100名

概要

情報端末事業委員会では、ユビキタス情報社会での情報端末がいかにあるべきかを研究し、我が国の情報端末の新しい分野への発展・普及とこれからの需要喚起を図っていくため、コンピュータのキーコンポーネント（ディスプレイ、磁気ディスク装置）、コンピュータの機能を拡張する装置（プリンター、イメージスキャナ）、業務用装置（金融端末、流通POS端末、ハンディターミナル、OCR、KIOSK端末、監視カメラシステム）を情報端末と位置づけ、各製品ごとに専門委員会やワーキンググループを設け、技術動向・市場動向・各種標準の作成等の調査研究活動を行っており、研究内容の発表の場として毎年東京において情報端末フェスティバルを開催しています。本フェスティバルは、今年で17回目を迎えましたが関西地区においても4回目となる情報端末フェスティバル2013 in 京都を開催しました。

下記3つの特別セッションにおいてIT分野を牽引するわが国の施策、最新のトレンド、また近年脚光を浴びているウェアラブルコンピュータについてご講演をいただき、活発な意見交換が行われました。



プログラム

○主催者挨拶

鎌上信也 氏（沖電気工業(株) 常務執行役員）

○来賓挨拶

白須 正 氏（京都市産業観光局長）

○「エレクトロニクス産業の現状と今後の政策」

小泉真認 氏（経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 課長補佐）

○「2020年までの電子機器・半導体業界と日系企業」

南川 明 氏（IHSグローバル E&M日本オフィス代表）

○「ウェアラブル情報端末の展開～HMD、ウェアラブルカメラ、ウェアラブルセンサ等～」

塚本昌彦 氏（神戸大学大学院 工学研究科 教授）